

当院での精索静脈瘤の治療  
～思春期前の患者に対するプレコンセプションケア～

岩月 正一郎（名古屋市立大学大学院医学研究科 腎・泌尿器科学分野）



この度、第 31 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会において「当院での精索静脈瘤の治療～思春期前の患者に対するプレコンセプションケア～」というテーマで発表させていただき、学会賞をいただくことができました。関係の方々に御礼申し上げます。

私の専門は男性不妊症であり、生殖医療チームの一員として不妊治療にあたっています。男性不妊症の原因は多岐にわたりますが、今回発表させていただきました精索静脈瘤の他に、停留精巣の既往のある男性不妊症の患者さんの治療もしております。名古屋市立大学では、小児泌尿器科チームと生殖医療チームが、小児期から成人にいたるまでを一貫して診させていただき体制をとっています。

「プレコンセプションケア」とは、妊娠前の段階から将来の妊娠を目指した健康ケア、という意味の言葉です。その一環として、当院の小児泌尿器科では停留精巣の手術の際に精巣生検をしています。実際に私の担当する不妊専門外来には、当院で停留精巣に対する手術を受けた方が不妊を主訴として受診されることがしばしばあります。その際には、精巣固定術の時点での精巣生検の結果が、精液検査や内分泌学的検査以上に有益な情報を与えてくれます。

生殖医療に携わる立場から、目の前の小児精索静脈瘤や停留精巣の手術をするだけにとどまらず、将来の生殖機能を見据えた小児泌尿器医療が提供される体制、つまり「精巣の疾患をもつ男児に対するプレコンセプションケア」が広く浸透することを待ち望んでおります。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。